

ペルーにおけるジュニア企業の探鉱活動状況

リマ海外調査員 辻本崇史報告

鉱業ポテンシャルに富むペルーでは、金属市況の好転もあり、活発な探鉱活動が継続しているが、これを支える一翼を担っているのが、カナダを中心とする所謂ジュニア企業と呼ばれている企業である。

当事務所では、このペルーでのジュニア企業の探鉱活動状況を把握することを一つの課題として取り組んでいるが、今回、私が当地着任後の約 10 か月間の間に収集した、ジュニア企業の範疇に入ると判断した企業の探鉱活動に係る報道記事等を基に、ジュニア企業の探鉱活動状況を、ここにとりまとめた。従って、ここで取り上げた企業(18社)は、この 10 か月程の間に、ペルーで比較的活発に活動している企業と考えられる。ここに紹介した企業以外にも、当地で活動中のジュニア企業は存在するであろうが、関連の報道が全くあるいは殆ど見あたらないことから、探鉱活動が不活発か、見るべき探鉱成果がないものと思われる。

まず、全体的な特徴を簡単にまとめる。

これら 18 社の国別内訳は、カナダ 12 社、米国 4 社、英国 1 社、豪州 1 社となっており、カナダ企業が全体の 2/3 と、他を圧倒している。

対象鉱種は貴金属(金、銀)と銅が大半を占め、両鉱種以外では、亜鉛・鉛を対象とする案件が僅かに見られる程度である。貴金属(とくに金)を主対象としている企業が全体の 6 割程度、銅、その他を主対象としている企業が残りの 4 割程度であるが、貴金属を主対象としていない案件の場合でも、副産物として貴金属(主として金)を含む場合が多い。

銅を主対象とする案件は、比較的、探査ステージの進んだ案件が多く、プレ F/S から F/S 段階にある案件が相対的に多いのが特徴である。鉱床タイプとしては、ポーフィリー銅(金あるいはモリブデン)型、スカルン型であり、ほぼ全てが億 t クラスの大規模鉱床の開発を目指していると判断され、高品位な中規模鉱床をターゲットとしているケースは見当たらない。

一方、金を主対象とする案件の場合は、比較的、探査ステージが初期段階にある案件が多い。探査のターゲットとして、当国を代表する金山・金鉱床である、Yanacocha、Pierina、Alto Chicama タイプの浅熱水性の鉱染型を主とする大規模な金鉱床に置いている案件の他、高品位な鉱脈型金鉱床の発見を目指しているケースも見られる。

一部の亜鉛・鉛を主対象とする案件は、スカルン型の中規模な高品位鉱床をターゲッ

トとしている。

以下に、各社別、また主な案件別に、最初に述べた報道記事等を基に、最近の概況を列記する。

これらは、極めて表面的な情報ではあるが、ペルー国内でのジュニア企業の探鉱活動状況の全体像は把握可能と考える。これらの情報が、新組織移行後の当機構のペルーに係る探鉱戦略等の企画・立案に多少なりとも寄与できれば幸いである。

なお、文末に示した主要案件のプロジェクト位置図については、案件によっては極めて大雑把な位置情報しか把握できなかったものもあり、この場合は位置図に示さず、正確な位置情報(経緯度情報)とある程度の位置が特定できる情報(例えば、市の東方 Km)を把握できた案件のみを印した。

(1) Bear Creek Mining(加)

同社は、ペルーを活動の場として貴金属を主対象に多数(6~7件)の初期的な探鉱案件を有する。

具体的には、ペルー中部の Estrella(Huancavelica 県)地区(金)、Lomo de Camello(Ica 県)地区(金)、南部の Santa Rosa(Arequipa 県)地区(金)、Ataspaca(Tacna 県)地区(金)、Ninobamba(Ayacucho 県)地区(銀)、北部の La Pampa(Lambayeque 県)地区(金)等である。

全て初期段階の探鉱であり、年間 3 百万ドル程度の探鉱投資により、2003 年には、Estrella 地区、Santa Rosa 地区、Ninobamba 地区ではボーリング調査も行っている。しかし力点を置いた前者 2 地区で期待した成果が得られていない等、これまでのところ全体的に探鉱成果は低調である。

2004 年上期には、La Pampa 地区、Ataspaca 地区で初のボーリング調査等が予定されている。

Estrella

鉱種：金(鉱脈型)

- ・ 100%権益取得のオプション権を獲得。
- ・ 2002 年 9 月、地表探査を開始し、金の鉱徴を把握(2Km x 400m 範囲(224 試料分析) 平均金品位 1.15g/t(平均採取幅 1m))。
- ・ 2003 年 5 月、ボーリング調査(8 本(1,258m))を開始。一部で鉱徴を把握(150m 間 金 0.36g/t(内、0.5m 金 22.1g/t : 0.5m 12.6g/t)等)。

- ・ 2003 年 7 月、ボーリング調査を継続実施(4 本(713m))。期待した鉱徴を把握できず(最大鉱徴 164m 間 金 0.32g/t)。調査成果を評価し、今後の調査方針を決めたいと表明。

Santa Rosa

鉱種：金(鉱脈型)

- ・ 100%の権益を保有。過去の地表探査により金の高品位脈を把握(54 試料(総走向延長 3Km、平均脈幅 0.8m) 平均金品位 23.8g/t)。
- ・ 2003 年 7 月、ボーリング調査(12 本(893m))を開始。期待に反し、3 本のみ高品位脈に着鉱(1m 間 金 24.2g/t : 0.26m 間 44.4g/t 等)。
- ・ 2003 年 11 月、本地区に関心のあるパートナーを募ると発表し、独自探鉱は中断を示唆。

Ninobamba

鉱種：銀

- ・ 2003 年 7 月、AngloGold 社より 60%権益のオプション権を獲得。
- ・ AngloGold 社の過去(2001 年)のボーリング調査(5 本(861m))により、内 2 本で銀の鉱徴を把握(130m 間 銀 87g/t 等)。
- ・ 2003 年 10 月、ボーリング調査(8 本(1,000m))を開始。内 5 本で銀の鉱徴を把握(26m 間 銀 80g/t 等)。今後の探鉱計画は不明。

(2) Candante Resources(加)

同社は、現在、ペルー北部に位置する Alto Dorado(La Libertad 県)地区で、Yanacocha、Pierina 鉱床タイプの鉱染型金鉱床を対象に、初期的探鉱を行っている。既に、地表探査等により有望な鉱徴を把握しており、2004 年の第 1 四半期より本格的なボーリング調査に移行する計画である。

本案件以外にも、ペルー国内に 2~3 件の極めて初期段階の探鉱案件を保有するとされているが、これらの状況については報道がなく不明である。

Alto Dorado

鉱種：金(鉱染型)

- ・ 2002 年 10 月、Hecla 社より 100%権益を取得。
- ・ 過去、Hecla 社による地表探査(1997 年~)で既に金の鉱徴を把握済み。
- ・ 同社は、権益取得後の地表探査で、Toril ゾーンで広範な熱水作用と金の鉱徴(0.5~3.6g/t)を確認。

- ・ 2003 年 12 月、2004 年第 1 四半期に 2,000m 以上のボーリングを実施と発表。

(3) Chariot Resources(豪)

同社は、2002 年に設立され、ペルーを活動の場として貴金属を主対象に多数の探鉱案件を有する。

ペルー南部の Cello Ccasa(Ayacucho 県)地区では金・銀を対象(鉱染型)に比較的ステージの進んだ探鉱を行っている他、同じく南部の Yanama(Apurimac 県)地区では Rio Tinto 社よりオプション権を取得し、金鉱床(鉱染型)の初期的探鉱を行っている。また、Alto Chicama 金鉱床に近い北部の Wolframfed(La Libertad 県)地区でも、昨年 5 月にオプション権(100%権益)を取得し同タイプの金鉱床の初期的探鉱を行っている。

一方、銅鉱床についても、昨年末に BHP Billiton 社からオプション権(70%権益)を取得し、Las Bambas 鉱床に近い南部の Bambas Este(Apurimac 県)地区でスカルン型を対象に、中部の Antash(Ancash 県)地区ではポーフィリー型を対象に初期的探鉱を開始する。

Cello Ccasa

鉱種：金・銀(鉱染型)

- ・ 2002 年、Rio Tinto 社よりオプション権取得(権益比率は不明)。
- ・ 過去の調査による鉱量は 17.3 百万 t(銀 56.5g/t、金 0.23g/t)。
- ・ 2004 年 1 月、3 月よりボーリング調査と冶金試験を開始し、この結果によりプレ F/S 段階に進むか否かを決定すると発表。

Yanama

鉱種：金(鉱染型)

- ・ 2002 年 12 月、探鉱権取得。
- ・ 2003 年 9 月、ボーリング調査(7 本(850m))を開始。一部で高品位な鉱徴を把握(10m 間 金 6.6g/t : 8m 間 金 5.6g/t 等)。
- ・ 2003 年 11 月、2004 年第 1 四半期に、探鉱成果をフォローする目的でトレンチ、ボーリング調査等を計画と発表。

(4) Dynacor Mines(加)

同社は、ペルー南部の Tumipampa(Apurimac 県)地区で、ポーフィリー型の金・銅鉱床を対象に 2001 年から探査を開始し、2002 年半ばにはボーリング調査に移行した。この結果、推定鉱量(金量約 8t)を発表するに至ったが、今後の探鉱計画等は不明である。

また、同社は今年1月、Yanacocha 金山に隣接する Cerro Calvan 地区(Cajamarca 県)で 100%権益取得のオプション権を獲得したと発表し、既に確認済みの地表鉱徴より、同金山と同タイプの金鉱床を対象に探査を開始する。

なお、同社は既に、南部の Acari(Arequipa 県)地区で、鉱脈型の小規模な金山(80%権益保有)を操業しているが、周辺探鉱を積極化し、現在の鉱量(1.15 百万 t(金 16.4 g/t))の倍増を目指している。

Tumipampa

鉱種：金(鉱脈型)

- ・ 2001 年 9 月以降、種々の地表探査を行い、2002 年 6 月にボーリング調査 (8 本(2,250m))を開始。浅部角礫岩中で鉱徴(30m 間 金 1.9g/t、銅 0.18%)を把握。
- ・ 2003 年 3 月、追加的なボーリング調査(8 本(1,840m))を開始。
- ・ 2003 年 12 月、ボーリング調査結果等に基づき、推定鉱量は 2.87 百万 t(金 2.73g/t)と発表。しかし、今後の探鉱計画等については報道がなく不明。

(5) Geologix Explorations (加)

同社は、現在、ペルー北部の Cerro Calorco (La Libertad 県)地区で、金鉱床を対象に、初期的探鉱を行っている。

2004 年 1 月、地表サンプリング調査で鉱徴(平均金品位 2.0g/t(17 試料:450m×140m)等)を把握し、今後数か月、引続きサンプリング調査、物理探査等の地表探査を継続すると発表した。

本案件以外にも、南部の Millo(Puno 県)地区で、Candante Resources 社との JV(50%/50%)による探鉱案件(金)を保有するとの報道はあるが、詳細は不明である。

(6) Gitennes Exploration(加)

同社は、現在、ペルー北部の Urumalqui(La Libertad 県)地区で Meridian Gold 社と各 50%の権益を保有し、オペレータとして鉱脈型金・銀鉱床を対象に、初期的な探鉱を行っている。

地表探査に続き、昨年 10 月よりボーリング調査を開始した。この結果、金・銀の鉱徴を把握し、今後もより広範な地表探査、ボーリング調査を計画している。

なお、同社は、本案件以外に、昨年半ばより Rio Seco 地区と呼ばれる地区で金を対象に探査を開始し、ボーリングも実施しているが、注目すべき探鉱成果の報告はなく、詳細は不明である。

UrumaIqui

鉱種：金・銀(鉱脈型)

- ・ 2003年1～6月、種々の地表探査を実施し、ターゲット地区を選定。
- ・ 2003年10月、ボーリング調査(14本)を開始。
- ・ 2004年1月に、鉱徴把握と発表(13m間 金 2.2g/t、銀 212g/t：13m間 金 1.2g/t、銀 136g/t 等)。同時に、2004年もより広範に地表探査を実施し、ボーリングを継続する予定と発表。

(7) Inca Pacific Resources(加)

同社は、現在、ペルー北部の Magistral(Ancash 県)と中部の Antoro Sur (Huanavelica 県)の2地区で、スカルン型銅鉱床の探鉱・開発を行っている。

前者は、既に1億t程度の鉱量を把握しているステージの進んだ案件であるが、同社は現在の49%の権益保有から、近く Anaconda Peru 社が保有する51%の権益を買い取り100%保有となる。しかし、その後の探鉱・開発計画は不明である。

後者は、2002年に100%権益取得のオプション権を獲得した、初期的探鉱案件であるが、地表探査に続くボーリング調査で有望な鉱徴を把握し、さらにボーリング調査等を積極化する予定である。

Magistral

鉱種：銅(スカルン型)

- ・ 1998年12月、100%権益取得のオプション権を獲得。1999年10月、Anaconda Peru 社に51%のオプション権を譲渡。両社による探鉱開始。
- ・ 2002年3月、ボーリング結果(24,600m)等より、推定鉱量 105百万t(銅0.74%)と発表。
- ・ 2003年12月、同社は、Anaconda Peru 社保有の51%の権益を近く買い戻すと発表。
- ・ 今後の計画は不明ながら、F/S実施に向けパートナー企業を募る見込み。

Antoro Sur

鉱種：銅・金(スカルン型)

- ・ 2002年5月、100%権益取得のオプション権を獲得。
- ・ 2003年9月、地表探査に続きボーリング調査(25本(1,866m))を開始。一部で銅の有望な鉱徴を把握(35m間 銅 1.29% 等)。
- ・ 2003年11月、次段階の調査として30本(3,000m)以上のボーリング調査を計画と発表。

(8) International Minerals (米)

同社は、現在、ペルー南部の Pallancata (Ayacucho 県) 地区で、鉱脈型の高品位銀・金鉱床を対象に、初期的探鉱を行っている。スペイン統治時代の採掘跡、地表探査から鉱徴を確認し、昨年後半にはボーリング調査を行い、一部で高品位鉱脈を把握した。2004 年も引き続きボーリング調査を計画している。

本案件以外にも、南部の Vetaspata (Puno 県) 地区で鉱脈型の高品位金鉱床を対象に探鉱案件を保有し、昨年末には 2004 年にボーリング調査を計画と報道されたが、詳細は不明である。

Pallancata

鉱種：銀・金(鉱脈型)

- ・ 2003 年 5 月、地表と坑内サンプリング(231 個)により、平均品位 銀 1,108g/t、金 4.4g/t(総走向延長 360m、平均脈幅 1.35m)と発表。
- ・ 2003 年 7 月、ボーリング調査(17 本、2,491m)を開始。内、9 本で高品位脈を把握(3.6m 間 銀 1,020g/t、金 5.5g/t : 5.2m 間 銀 494g/t、金 1.6g/t 等)。
- ・ 2003 年 12 月、2004 年早々に引き続きボーリング調査を実施と発表。

(9) Lumina Copper(加)

同社は、昨年 5 月に設立された新企業で、現在、ペルー北部の El Galeno(Cajamarca 県)と Pashpap(Ancash 県)の 2 地区でポーフイリー型銅鉱床の探鉱を行っている。

両案件とも、新会社設立後、直ちに獲得した案件であるが、過去にメジャー企業等により相当規模の探鉱実績があることから、現在は、これらの再評価の段階にあると推測される。

同社独自の具体的な探鉱計画は、発表されていない。

El Galeno

鉱種：銅・金(ポーフイリー型)

- ・ 2003 年 6 月、100%権益取得のオプション権を獲得。
- ・ 過去、Newmont 社、North 社等が探鉱(ボーリング 51 本(13,146m)等)。
- ・ 同社は、推定鉱量 486 百万 t(銅 0.57%、金 0.14g/t)と発表。

Pashpap

鉱種：銅・モリブデン(ポーフイリー型(一部スカルン型))

- ・ 2003 年 7 月、探鉱権取得。
- ・ 過去、Noranda 社、Newmont 社等が探鉱(ボーリング 88 本(16,245m)等)。
- ・ 推定鉱量(1976 年 Homestake 社)101 百万 t(銅 0.64%、モリブデン 0.049%)。
- ・ 同社は鉱量等の再評価を実施した模様だが、未発表。

(10) Manhattan Minerals(加)

同社は、ペルー北端部に位置する Tambo Grande(Piura 県)地区で、塊状硫化型の大型の多金属鉱床(金・銀・銅・亜鉛)開発のオプション権(75%)を保有していた企業として有名であるが、開発に伴う環境問題を危惧する地元の強い反対運動に会い、開発計画が行き詰まる中で、2003 年 12 月、ペルー政府側がオプション契約を一方向的に破棄した。政府側によると、破棄理由は、契約書に則して提出した同社の証明書類の内容が、政府側の要求を満たさなかったこととしたが、同社はこれを不服とし、現在、調停作業が行われている。

同社は、本鉱床の周辺地区(Papayo 等)で探鉱を実施中と伝えられているが、具体的な探鉱活動に関する報道はなく、詳細は不明である。恐らく、同社の鉱山開発に対する拒否反応が強い地元感情の中で、周辺地区での積極的な探査活動の実施は難しいものと思われる。

(11) Meridian Gold(米)

同社は、現在、ペルー北部の Los Pircos と Lucero(共に Cajamarca 県)の隣接する 2 地区で、地元産金大手の Buenaventura 社より 51%権益取得のオプション権を獲得して、鉱脈型金鉱床の初期的探鉱を行っている。

Los Pircos 地区では、2002 年半ばよりボーリング調査を開始し、一部で高品位鉱に着鉱した模様である。Lucero 地区では、2003 年より探鉱を開始し、地表探査を実施中である。

Los Pircos

鉱種：金(鉱脈型)

- ・ 2001 年 3 月、Buenaventura 社と探鉱契約を締結。同年 9 月、地表探査を開始。
- ・ 2002 年半ばにボーリング調査を開始。同年の調査により、10 万オンスの金量(高品位鉱)を把握。
- ・ 2003 年の探鉱投資額は、ボーリング(30 本)等に 88 万ドル(他に Lucero 地区に 25 万ドルの探鉱投資)。ボーリング結果等は未発表。

探鉱目標は、金量 100 万オンス以上の高品位鉱床の把握。

(12) Monterrico Metals(英)

同社は、現在、ペルー北部のエクアドルとの国境近くの Rio Blanco 地区(Piura 県)でポーフイリー型銅鉱床の探鉱・開発を積極化しており、2003 年 12 月には F/S 段階(期間 18 か月)に入った。

同社は、本案件以外にも、ペルー国内(Mamamina(Ancash 県)等)に広く銅・金の探鉱案件を保有するとされているが、これらの状況については報道がなく不明である。

Rio Blanco

鉱種：銅(ポーフイリー型)

- ・ 2001 年 8 月、75%権益取得のオプション権を獲得。2003 年 4 月、Gitennes 社より 100%の権益取得。
- ・ 1997 ~ 2000 年、Cyprus 社(Phelps Dodge 社)が探鉱。
- ・ 2003 年 10 月、プレ F/S 終了。
- ・ 鉱量 177 百万 t(銅 0.98%)、初期開発投資額 190 百万ドル、年産銅量約 10 万 t(精鉱中)、直接生産コスト 50 セント/lb、IRR 33%(銅価 90 セント/lb)。
- ・ 2003 年 12 月、F/S 開始(18.2 百万ドル：期間 18 か月)。20,000m のグリッドボーリング等実施の予定。

(13) Panoro Minerals(加)

同社は、現在、ペルー北部の El Rosal (Lambayeque 県)地区でポーフイリー型銅鉱床、スカルン型銅・金鉱床を対象に、初期的な探鉱を行っている。

昨年 6 月より種々の地表探査を実施し、スカルン型の銅・金の鉱徴を把握する等、ボーリング調査に向けたターゲットの絞り込みを行った。

2004 年早々に、ボーリング調査を開始したと発表した。

El Rosal

鉱種：銅・金(ポーフイリー型、スカルン型)

- ・ 2003 年 6 月、地表探査を開始し、スカルン型、ポーフイリー型の鉱徴地を複数地点で把握。一部で銅・金の鉱徴を確認(銅 0.6 ~ 1%、金 0.2 ~ 1.5g/t)。
- ・ 2004 年 1 月、ボーリング調査を開始と発表(9 本(3,000m))。

(14) Peru Copper Syndicate(米)

同社は、現在、ペルー中部の Toromocho 地区(Junin 県)でポーフイリー型銅鉱床の探鉱・開発を実施中で、既にプレ F/S 段階にあり、2004 年内にも F/S 段階に移行する意向である。

同社は、世界的に著名な地質学者の David Lowell 他 3 名が、大規模銅鉱床の探査・開発を目的に 2002 年に設立された会社で、本案件以外にも、ペルー国内に探鉱案件を保有するとされているが、これらの状況については報道がなく不明である。

Toromocho

鉱種：銅・モリブデン(ポーフイリー型)

- ・ 2003 年 5 月、政府入札により 100%の開発オプション権を獲得。5 年間の義務探鉱費は、12 百万ドル。
- ・ 過去、1970 年前後に、Cerro de Pasco 社等により 143 本のボーリング(42,000m)等の探鉱実績。1995 年～1997 年には約 70 万 t の小規模な採掘実績も有り。
- ・ 同社は、落札時に、本鉱床は鉱床上部の輝銅鉱主体の部分のみで鉱量 410 百万 t(銅 0.67%)と発表。
- ・ 2003 年 11 月、落札後に実施した 5 本のボーリングの状況を発表。深部に鉱床が連続し鉱量が増加する点、過去のボーリングとの比較から全体に品位が一割程度向上すると期待される点を強調。
- ・ 今後、年産銅量 20 万 t 規模の鉱山開発を目指した探鉱・開発が本格化する見込み。

(15) Solitario Resources (米)

同社は、現在、ペルー北部の La Pampa(Lambayeque 県)地区で、Bear Creek 社に 65% 権益取得のオプション権を与え、金鉱床を対象に初期的探鉱を共同で行っている。昨年 7 月に、地表の鉱徴に基づきボーリング調査(8 本、各 300m)を開始すると報道されたが、その後の同社の探鉱活動状況は不明である。

同社はまた、北部の Bongara(Amazonas 県)地区に、スカルン型の高品位亜鉛鉱床(鉱量 1.9 百万 t:亜鉛 19.3%、鉛 2.2%)を保有するが、2001 年 2 月に Pasminco 社と Cominco 社がオプション権を放棄し撤退した後は、探鉱・開発活動は中断している模様である。

(16) Southwestern Resources(加)

同社は、現在、ペルー南部の Liam(Cusco 県)地区で、Yanacocha 鉱床タイプの金・銀鉱床を対象に、同じく南部の Accha(Cusco 県)地区では、スカルン型亜鉛・鉛鉱床を対

象に探鉱を行っている。

前者は、既に大規模な鉱徴を把握し、昨年 10 月には Newmont 社も参入し、両者の JV(50%/50%)により、今後、探鉱が促進される模様である。

後者は、トレンチ調査で酸化帯中に高品位な亜鉛の鉱徴を把握する等、広範に亜鉛・鉛・銀の鉱化帯を確認し、今後、継続的な探査を予定している。

同社は、両案件以外にも、ペルー国内に広く金を主対象とした探鉱案件(5~6)を保有するとされているが、これらの状況については報道がなく不明である。

Liam

鉱種：金・銀(鉱染型)

- ・ 2002 年 11 月、約 300 個の地表試料で金・銀の鉱徴を把握(平均品位 銀 188g/t、金 0.46g/t)。
- ・ 2003 年 6 月、ボーリング調査(12 本(2,000m))を開始。同年 9 月、大規模な金の鉱徴を把握と発表(153m 間 金 1.9g/t : 120m 間 金 2.1g/t 等)。
- ・ 2003 年 10 月、Newmont 社が 50%権益のオプション権を獲得し参入。
- ・ 2003 年 12 月、追加ボーリング調査(1,000m)の結果でも鉱徴を把握と発表(122m 間 金 1.6g/t、銀 52g/t : 120m 間 金 0.86g/t、銀 93g/t 等)。両社の JV 調査により、次段階のボーリング調査を計画中。

Accha

鉱種：亜鉛・鉛(スカルン型)

- ・ 2003 年 5 月、トレンチ調査により酸化帯中に高品位な亜鉛鉱徴を把握(2m 間 亜鉛 17% : 1.5m 間 亜鉛 20%等)。
- ・ 過去の調査で、近隣地区(北東 10km)に亜鉛鉱床(鉱量 9 百万 t(亜鉛 9%))を把握済み。
- ・ 2003 年 12 月、トレンチ調査(150m)により新たに酸化帯中に亜鉛・鉛・銀の鉱徴を把握(2m 間 亜鉛 14.8%、鉛 10.9%、銀 290g/t 等)。フォローアップ探査を計画中と発表。

(17) Sulliden Exploration(加)

同社は、現在、ペルー北部の Shahuindo(Cajamarca 県)地区で 70%の権益を保有し、Alto Chicama 鉱床タイプの鉱染型金鉱床を対象に、探鉱・開発を積極化している。

既に、過去にメジャー企業によりプレ F/S 段階まで進み、100 万オンス近い金量を把握しているが、同社は、さらに周辺部にまで探査を拡大し、新たに有望な鉱徴を把握している。

2004年2月より、本格的なボーリング調査(10,000m)に移行する予定で、大規模な金鉱床の把握を目指し、探査を活発化している。

Shahuindo

鉱種：金(鉱染型)

- ・ 2002年8月、100%権益を取得。同年11月、30%権益を Socrate 社に売却。
- ・ 過去、1993～1998年に Asarco 社、SPCC 社が探鉱し、プレ F/S まで実施。金量 82.5 万オンス(金 0.9g/t)を計上。
- ・ 同社は、権益取得後の地表探査とボーリング(27 本(3,450m))で、既知鉱床周辺部で新たに有望な鉱徴を把握(64m 間 金 1.49g/t 等)。
- ・ 2003年1月、2月より 10,000m のボーリングを実施と発表。

(18) Tinka Resources(加)

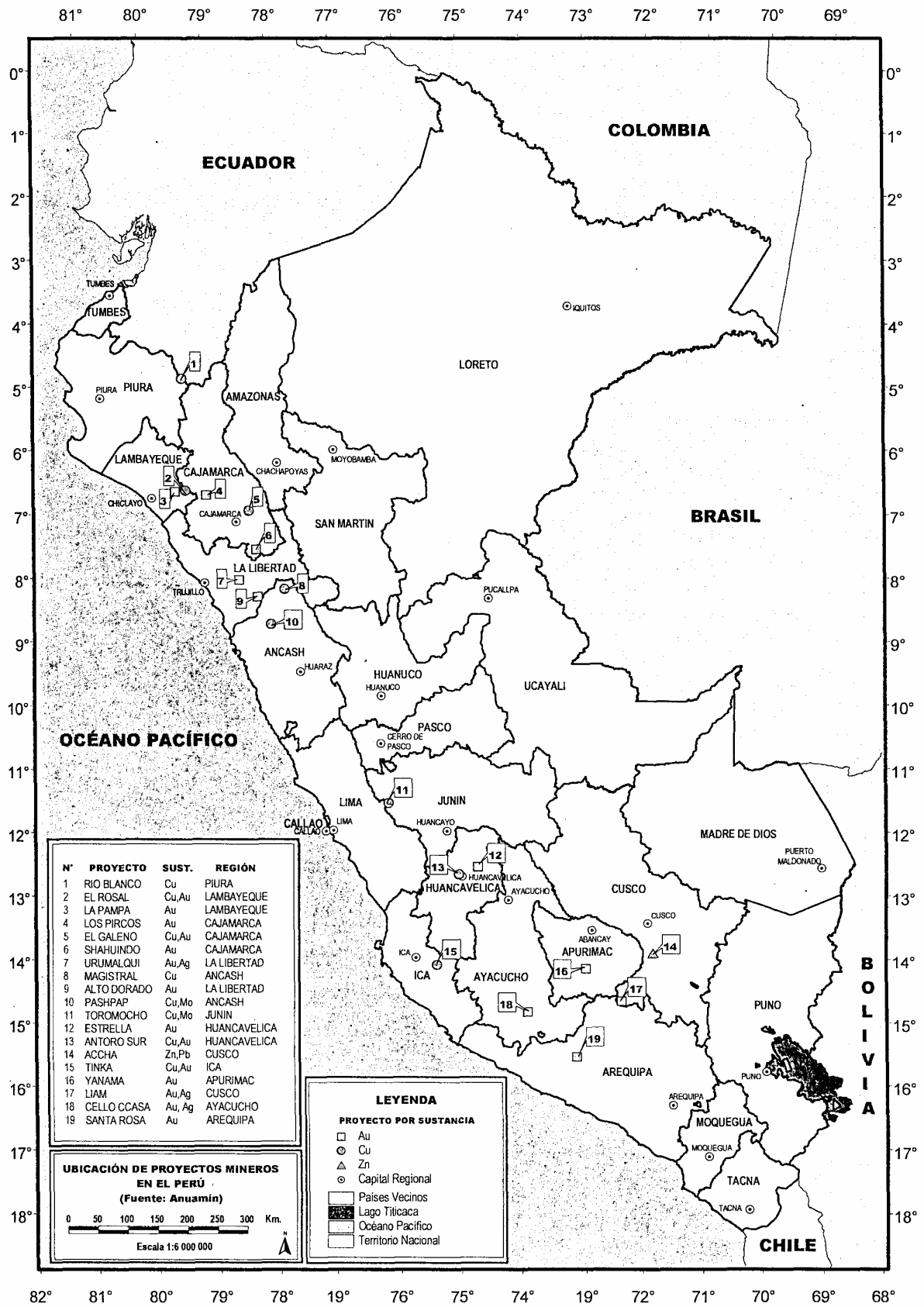
同社は、現在、ペルー中部の Tinka(Ica 県)地区で 70%権益のオプション権を保有し、銅・金鉱床を対象に、初期的な探鉱を行っている。

過去、地表探査しか実施されていないが、2003年、同社はボーリング調査に向け、主に物理探査によりターゲットの絞り込みを行い、年末よりボーリングを開始した。2004年早々に、最初の3本のボーリングの一部で銅の鉱徴を把握したと発表したが、今後も引き続きボーリング調査を継続する模様である。

Tinka

鉱種：銅・金

- ・ 2003年2月、Tumi Resources 社より 70%権益取得のオプション権を獲得。
- ・ 2003年10月、ボーリング地点選定を目的に物理探査を開始。同年12月、ボーリング調査を開始。
- ・ 2004年1月、最初の3本のボーリング(262m)で、銅の鉱徴(18m 間 銅 0.5%)を把握と発表。



主要案件のプロジェクト位置図